

「政治をもっとわかりやすく!」をお届けします

いけたくチャンネル No.31

2022
Aug
発行

情報発信中!!

Facebook
Instagram
Twitter

発行元 池下卓事務所 〒5691121 大阪府高槻市真上町1-1-18Insist3A Tel/072-668-2013 Mail/info@iketaku.jp

池下卓 検索

衆議院議員

池下卓

いけしたたく



鉄道の高架化で地域の発展を!! の巻

[特別企画] スタッフに聞く 議員事務所のお仕事事情・秘書コラム

日本維新の会

1975年生まれ、高槻市山手町出身。税理士。大阪府議会議員を3期務め、令和3年に衆議院議員初当選。現在、衆議院厚生労働委員会理事、科学技術・イノベーション推進特別委員会理事、国土交通委員会所属。趣味は書道、茶道、自転車。

鉄道の高架化で街の安全性&付加価値をアップ↑

地元高槻市と島本町には日本の大動脈であるJR東海道本線が東西に横断しており、線路が市街地を南北に二分していることによる課題があります。

例えば芥川～総持寺間では、鉄道事故が全国平均の約1.4倍も発生しており、事故による鉄道ダイヤの遅延は北陸新幹線にも影響するといわれています。また、消防車両や救急車などの緊急車両も遠回りをせざるを得ず、到着が遅れる可能性もあります。

私は大阪府議会議員時代からこの問題に取り組んでおり、衆議院議員当選後も国会で取り上げました。この鉄道の高架化事業(=連立立体交差化事業)をなんとか成功させ、地元の大きな発展の一助にしていかなければいけないと考えています。

しかしながら、完成までの予算総額は約638億円と試算されており、非常に大きな予算が必要となることから、誰が事業主体となるのが課題になっています。

高架化事業は複数の自治体に関係するため、本来であれば都道府県が主体となり国も補助をして実施していくものになりますが、この事業は他地域でも要望が多く、なかなか実現に至っていません。

法律では「人口20万人以上の都市も高架化事業を実施できる」と規定されていますが、高槻市などの中規模自治体では資金的

余裕はなく、単独で実施することは不可能です。

私は国会において、「高槻市だけが頑張るのではなく、大阪府や国も事業を推進させていくために一丸となって行っていくべき」と齋藤国土交通大臣へ質疑をしました。大臣からも「高槻市だけが負担すべきものではない。国としても支援をしていく」とした旨の回答を得ることが出来ました。

富田地区では施設一体型小中一貫校構想に係る通学路の安全対策が課題になっていると聞いています。子ども達に危険な踏切を通らせることなく、安全な通学路を確保するためにもこの事業は抜本的な解決策になると考えています。

国会での私の質疑後に、高槻市が国土交通省に訪れており、現在も鋭意交渉を進めています。また、大阪府議会議員時代の経験を活かし、私が大阪府とのパイプ役となって事業を進めていきたいと考えています。地元高槻市、島本町を良くしていくためにも引き続き尽力して参ります。



連続して高架化することで踏切を一挙に撤去



踏切による交通遮断を抜本的に解消

連立立体交差化事業(国土交通省HPより)



スタッフに聞く!「議員事務所のお仕事事情」



【池下】 山崎さんはうちの事務所にきてもうすぐ2年になりますが、なぜ議員秘書の仕事に興味を持たれたのですか?

【山崎】 自身がコロナショック初期に罹患した経験から、国や地方行政のあり方により興味を持つようになったからです。元々、維新を応援していましたので周りの皆様のご協力のもと、池下議員をご紹介いただきました。ボランティア期間を通じて、誠実で真摯に政治と向き合い、休みなく働かれている池下議員のお姿を見て、私も仕事として関わりたくなりました。

【池下】 議員事務所は土日関係なく動いてますからね(笑) では、政治に携わる仕事でどのような仕事にやりがいを感じますか?

【山崎】 池下事務所には日々、地域の皆様からのご相談が入ってきます。ご希望にそえることばかりではないですが、皆様の声が地域の課題を知るキッカケとなることに気が付きました。地域の課題を議会などで解決していく池下議員の姿を見ていると素敵な仕事だと感じますね。私も地域の相談事を役所と折衝して解決できた時は、皆様のお役に立てたのだと充実感を感じます。コツコツと頑張っていきたいです。

【池下】 すぐに対応して解決できることもあれば、できないこともありますけどね。じっくりと腰を据えて頑張っていかないと実現しないこともありますよね。

【山崎】 「政治はロマンと我慢」が必要なのだと教わりました。池下議員が高槻警察署の建て替え問題を、府議時代に何年もかけて実現に向けて奔走されたと聞き、高槻市民の安全と安心を守るために、石にかじりついてでもやり遂げる信念の大切さを学びました。

【池下】 最後に、山崎さんはこれから政治の仕事についてどのように関わっていきたいですか?

【山崎】 池下事務所で仕事をする中で改めて高槻市の素晴らしいところを感じました。今、国会議員秘書という仕事を通して、国や大阪府、高槻市といった大きな目線と身近な目線の両方を見させていただいています。地域の皆様の声を聞いて課題を解決していくと共に、10年20年先を考えたときに「夢」の持てるような街づくりのお手伝いできればと思っています。



秘書こらむ 山崎まりこ

はじめまして。池下卓事務所の山崎麻里子です。業界未経験で飛び込んだ政治の世界。もともと、社会貢献と地方政治への関わり方を模索する中で辿り着いたお仕事なのですが、とにかくがむしゃらに高槻・島本の街を奔走する日々は地域の事を知るだけでなく、人として学ぶことが沢山ありました。

池下卓事務所では年2回学生インターンを受け入れており、若い世代の政治への理解や関心・印象について生の声に触れる機会がありました。時代が変われば考え方も求められる事も変わる。あたりまえの事のように聞こえますが、政治の世界にはまだまだ古い習わしがたくさん残っているように思います。

昨年話題になった文通費問題もその代表的なものです。変わるべき時がきているのに、変えようとする政治家が

多いのはなぜか…学生の真っ直ぐな問いかけに、私たち世代からも政治を変えていかなければと強く思うようになりました。

一方で古き良きものは受け継ぎ、守っていかねばならないと思っています。正しい日本の歴史や文化を学び継承していくこと。仕事の傍ら着付けと茶華道を習い始めたのですが、お稽古の時間は忙しい毎日でも心を穏やかに、豊かにする癒しの時間となっています。

政治も日本文化も世代を越えて関わる機会を増やし、将来世代が少しでも夢と希望を抱けるきっかけづくりに貢献したいと考えています。



山崎麻里子(やまさきまりこ)。1984年5月2日生まれ。大阪府茨木市出身/高槻市在住。あけのほし幼稚園、古市小学校、武庫川女子大附属中学校、長尾谷高等学校卒業。18歳で上京し、美容業界、芸能界、民間企業の管理職として働く。コロナ禍と都構想否決で政治に関心を強く持ち、2020年大阪にUターン。当時府議会議員だった池下卓事務所の門を叩き、ボランティアスタッフを経て議員秘書に。衆院選を共に戦い、2021年11月より国会議員秘書として地元を走り回る。家族は両親と叔母、愛猫5匹。趣味は陶芸、食べ歩き、スターバックス(マニア)。日本文化を学び深めたく、茶華道・着付けのお稽古中。高槻茶道会会員/高槻青年会議所所属/維新政治塾6期生/令和4年度大阪維新塾生/あにまるしえ実行委員



山崎まりこ